

教科名：アロマテラピー 1 (講義)			通期	教科担任：山本絵里子(実務経験教員)		
学科名：アロマケアサ ポート科		コース：		1年	単位数：	1 単位
授業のねらい		実務経験のある指導者の下、初歩段階として自分自身または家族や周囲の人々と一緒にアロマテラピーを楽しみ、健康維持のために用いる知識を身に付ける。植物を育む地球環境と地球が現在抱えている諸問題、さらには環境にやさしい 身近なエコアクションを知る。			4 5 H	
目指す検定・資格		目標 アロマテラピー検定（1級・2級）環境 カオリスタ検定			教材費	4 0 0 0 円
		取得可能な検定 ナチュラルビューティスタイリスト検定				
テキスト・教材		アロマテラピー検定公式テキスト アロマテラピー検定公式問題集 印刷教材				
		アロマ検定対応精油セット検定対応2級2100円検定対応1級A 3150円				
評価方法		前期 試験 レポート 課題により評価する 後期 試験 レポート 課題により評価する			その他	
時数	単元	授業内容（細目）			学習上の留意点	実時数
1	アロマについて	アロマテラピーとは			心と身体に役立てるのがアロマテラピー	2
2	アロマについて	香りのイメージレッスン			「香りを感じる」という行為に意識を向け、香りに対する感性を呼び覚ます	2
3	アロマについて	精油とは 精油の定義 植物にとっての精油			アロマテラピーと精油の定義を理解	2
4	アロマについて	精油の 5 つの特性 芳香性 引火性 揮発性 親油性 油脂との違い			精油の性質や植物にとっての精油の働きを学ぶ	2
5	アロマについて	ワークブック				2
6	精油の基礎知識	「植物園」に出かけてみよう			植物を実際に目で見たり、香りを嗅いだりする	2
7		芳香浴法			ティッシュペーパーやハンカチを利用	2
8	精油の基礎知識	スイート・オレンジ/レモン ラベンダー/ローズマリー/ペパーミント			各精油の特性を知り、有益であるが危険な性質をもつものがあるので、十分な知識をもったうえで扱う	2
9	精油の基礎知識デッサン	イランイラン/ゼラニウム/ ティートリー/ユーカリ（ユーカリプタス） ジュニパーベリー				2
10	精油の基礎知識デッサン	ワークブック				2
11	練習	フェイシャルスチーム 顔に精油成分を含んだ蒸気をあてる			血行を促進し、皮膚に潤いを与える	2
12	精油のプロフィール	精油を安全に使うために			使用量や濃度に十分な注意を払うことが大切	2
13	精油のプロフィール	ワークブック				2
14	精油のプロフィール	フェイシャルスチーム 顔に精油成分を含んだ蒸気をあてる			血行を促進し、皮膚に潤いを与える	2
15	練習	アロマテラピーの登場と普及 古代各国			体のプロポーション 動きを捉える。	2

16	安全な精油の	精油を安全に使うために	使用量や濃度に十分な注意を払うことが大切	2
	使い方			
17	安全な精油の 使い方	ワークブック		2
18	練習	ハーブティーで香りを味わおう	ハーブの香りを身体の内側から楽しむ	2
19	アロマテラピー利用法	アロマテラピーを利用する際の注意	用途によって材料を組み合わせることで、活用の幅がより広がる。	2
20	アロマテラピー利用法	基材について 希釈濃度	用途に合わせた安全な濃度を知る。具体的な方法とともに、安全に実践するうえで知っておきたい基材の知識や注意事項について学ぶ	2
21	アロマテラピー利用法	基材について水溶性の基材」「その他の基材」		2
22		基材について 「植物油 （キャリアオイル）」		2
23		用具について		2
24	練習	入浴剤 天然塩や重曹、ハチミツ、クエン酸等		2
25	アロマテラピーの利用法	1芳香浴法 2沐浴法 3吸入法 4フェイシャルスチーム 5湿布法 6トリートメント法 7手作り化粧品	思わぬトラブルを起こさないためにも、重要な知識	2
26	アロマテラピーの利用法		香りの楽しみ方や選び方を知り、体験してみる	2
27	練習	制汗剤	カオリン、ミント、コンスターチ	2
28	アロマテラピーの歴史	アロマテラピーの登場と普及 古代各国	経験に培われた知恵により、植物を生活に取り入れてきた。人と植物の香りとのかかわりをたどる。先史時代から古代、現代にいたるまでの、時代、人物名、職業、著作などを覚える。歴史を振り返ります。	2
29	アロマテラピーの歴史	アロマテラピーの登場と普及 中世		2
30	アロマテラピーの歴史	日本におけるアロマテラピーの広がり高木伝来から現代の科学まで		2

31	アロマセラピーの歴史	ワークブック		2
32	アロマセラピーの歴史	今後の活用 ホリスティック 予防医学 生活空間等	これからどのような分野で活用されていくか考える	2
33	アロマセラピーの歴史	ハーブを育ててみよう		2
34	練習	ボディスプレー・スキンローション・ルームスプレー	好きな香りや肌に合った精油で、オリジナルのスキンローションを作り、皮膚に潤いを与える	2
35	アロマセラピーの歴史アロマセラピーの歴史	アロマセラピーと地球環境	植物と地球環境とのかかわりについて、そして地球環境に生じている問題を学び、環境を守り、精油という植物の恵みを享受していく	2
36	アロマセラピーの歴史	植物と地球環境	植物を守ることが、地球全体の環境を保全することにつながる	2
37	アロマセラピーアロマセラピーの歴史の歴史	植物とさまざまな生物とのかかわり	さまざまな種がお互いに複雑にかかわり合いながら、さまざまな生態系をつくっている	2
		多種多様性		
38	アロマセラピーの歴史	地球環境のほころび オゾン層 CO2 砂漠化 酸性雨	地球のバランスが崩れきている	2
39	アロマセラピーの歴史	私たちの社会と環境 里地里山 都市化、近代化 地球温暖化 大量発生ゴミ	自然環境や国土保全への影響、農業や水産業をはじめとした経済活動への影響、感染症の病気の被害拡大など健康への影響など、私たちの生活の根本にかかわる大きな影響力行測されている。	2
40	アロマセラピーの歴史	環境保全の取り組み 「低炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の3つを実現する社会	便利さや快適性を追求する社会から脱却、環境に配慮したライフスタイルを実行する	2
41	アロマセラピーの歴史	ひとりひとりができることから (Reduce=リデュース)、繰り返し使用し(Reuse=リユース)、そして資源として再生利用する(Recycle=リサイクル)、「3R=スリーアール」	ひとりひとりができることを考え、工夫することが大切	2
42	アロマセラピーの歴史	ワークブック		2
43	法律	関連法規 ①医薬品医療機器等法 ②自己責任の原則について	アロマセラピーそのものを規制する独自の法律はないが、生活に取り入れる際に気をつけるべき法律。関係する法律の概要をつかみどのような行為が法律に抵触する可能性があるのか理解する。	2
44	法律	その他 ①製造物責任法(PL法) ②景品表示法③消防法 ④あん摩マッサージ指圧師、はり師。 きゅう師等に関する法律 ⑤医師法 ⑥獣医師法		2
45	練習	ワークブック		2
その他				

教科名：心理学とメンタルケア（講義）		通期	教科担任： 山本絵里子(実務経験教員)		
学科名： アロマケアサポート科		コース：	1年	単位数：	1単位
授業のねらい		実務経験のある指導者の下、人の成長・発達や日常生活と心の健康との関係、心理的支援の方法などについて理解し、人間の心や行動を理解するための基礎的な知識を持つ。また心の健康管理についてアドバイスできるようになる。		45H	
目指す検定・資格		目標		教材費	
		取得可能な検定			
テキスト・教材		アロマセラピーインストラクター公式テキスト(独自)			
		印刷教材			
評価方法		前期 試験 レポート 課題学期 最終授業時に実施する実技試験		その他	
		口頭質問、授業態度、出席状況を総合して評価する			
		後期 試験 ・レポート・課題により評価する			
時数	単元	授業内容（細目）		学習上の留意点	実時数
1	心理学とは	心の健康		心と体のケアの必要性	1
2		感覚と知覚		私たちが考えたり、行動したりする前に生じる、ごく初期段階の心の働きとすることができる。	1
3		動機づけと情動		やる気や感情についてのこころのしくみの理解	1
4		内面、外面的動機付けと行動 ワークシート			1
5	認知	学習と記憶		経験によって自身の行動を変化させることを通じて環境への適応	1
6		認知		推論、問題解決、意思決定などの知的なこころのしくみの理解	1
7		個人差の心理		心理検査の理論と方法	1
8		対人認知		対人認知の歪みがどのような性質のもので、なぜ生じるのか	1
9		ワークブック			1
10	発達心理学	発達とは		人の成長・発達とその心理の理解	1
11		乳児期		アタッチメントの形成	1
12		幼児期		言葉の獲得、自己と社会性	1
13		児童期		自己概念と向社会的行動	1
14		青年期		アイデンティの形成	1
15		成人期		親として社会的責任者として	1

16		老年期とボケ	喪失と人生１００年時代	1
17		ワークブック	理解を深める	1
18	心の基礎的概念	「意識」と「無意識」と「防衛機制」	心は自覚できる意識だけでできているのではなく、無意識が広がっているという概念に基づく。	1
19		フロイト 自我・自己・人格・ パーソナル・アイデンティティ	心の内面の基礎的定義を知る	1
20		自己認識・個性と役割 トラウマ	心的外傷や心理的複合体	1
21		コンプレックス ユング アイデンティティの確立	一人一人の人格は個性を持った独自の存在である。	1
22		独自性 ・統合性・連続性 アイデンティティの確立	一人一人の人格は個性を持った独自の存在である。	1
22		独自性 ・統合性・連続性		
23	ストレス	ストレスとストレッサー	ストレスとストレッサーの違い	1
24		ストレスのメカニズム	良いストレスと悪いストレス	1
25		ストレス学説 ハンスセリエ キャノンの緊急反応	段階的反応	1
26		様々なストレッサー	段階的反応	1
27		ストレスチェック	段階的反応	1
28		ストレス反応と感受性	段階的反応	1
29		ストレスと恒常性	段階的反応	1
30		ストレスによる問題	段階的反応	1
31		心の病気	段階的反応	1
32	心の病理と援助	セラピストと「聴く」こと ー「受けとめる」こと	日常生活と心の健康、心理的 支援の方法と実際（心理療法とカウンセリング）	1
33		クライアントと「語る」こと ー「表現する」こと	日常生活と心の健康、心理的 支援の方法と実際（心理療法とカウンセリング）	1
34		カウンセリングの「器」	日常生活と心の健康、心理的 支援の方法と実際（心理療法とカウンセリング）	1
35		出会いと見立て	日常生活と心の健康、心理的 支援の方法と実際（心理療法とカウンセリング）	1
35		クライアントとセラピストの「かかわり」	両者のかかわりと信頼性の確立	1
37		カウンセリングのプロセス	「読み」と「問いかけ」「語りかけ」	1
38	ストレス対処法とストレスケア	ストレス対処法	ストレス反応に予防的、管理的対応する。	1
39		休息 積極的休養と消極的休養	活動のバランスをとる	1
40		仕事、趣味と生き甲斐	自分の人生をコントロールする自覚を持つ。ペット、音楽、友人	1
41		体を動かす		1
42		食事管理 ストレスに負けない食事	サプリメント、ハーブ、薬膳	1
43		アロマセラピーとストレスケア	アロマセラピーは心身の緊張を和らげるリラクゼーション又はリフレッシュメントとして有効である。	1
44	ワークブック	問題を解く	理解を深める	1
45	ワークブック	問題を解く	理解を深める	1
その他				

教科名：健康学 1（講義）			教科担任： 山本絵里子（実務経験教員）		
学科名：アロマケアサポート科		コース：	1年	単位数：1単位	
授業のねらい		実務経験のある指導者の下、人間には、自分で体を治すしくみがあり、病気にならないためには、この力をアップする必要がある。自分の体を良く知り予防につなげられるようアドバイスできるようになる。		45H	
目指す検定・資格		目標 アロマセラピー検定（1級・2級）環境カオリスタ検定 取得可能な検定 ナチュラルビューティスタイリスト検定		教材費	
テキスト・教材		アロマセラピー検定公式テキスト アロマセラピー検定公式問題集 印刷教材			
評価方法		前期 試験 ・レポート・課題により評価する 後期 試験 ・レポート・課題により評価する		その他	
時数	単元	授業内容（細目）		学習上の留意点	実時数
1	健康学	身体を整えるしくみや身体作り（栄養、運動、病気）を知る。		人間の持つ恒常性を十分に引き出し、健康を守るために栄養、運動、休養が必要である。	1
2	健康維持	ホメオスターシス（恒常性） 体液浸透圧		人間には、自分で体を治すしくみを知る	1
3	体の不調	どのような不調があるか知る		疲労やストレスの蓄積により不調を訴える前に対処できないか考える。	1
4		体の不調とその原因			1
5	症状別原因と対処	肩こり		目の疲れ、冷え、ストレスタイプ	1
6		頭痛		緊張性、片頭痛、その他危険	1
7		むくみ		「女性特有」多い	1
8		冷え性		「女性特有」多い	1
9		便秘		肥満の原因や、肌荒れの原因	1
10	内臓	身体の器官（内臓）について知る		内臓、器官がどのような働きで、どこにあるか、自分の体に責任を持つ	1
11	各種疾病	メタボリックシンドローム、ロコモシンドローム 高血圧、梗塞などどのような成人にどんな病気が起こるかを知る		中高年以降起りやすい病気の原因と予防について知る。	1
12		生活習慣病チェック		日常生活習慣を再確認	1
13		血圧とコレステロール 動脈硬化/脂質異常症		サイレントキラー 動脈硬化が進行することで引き起こす疾病を知る	1
14		糖尿病		糖尿病の合併症	1
15		通風		男性に多く食事管理	1

16		その他虚血性疾患	様々な場所で血管が詰まる	1
17		肥満	各疾病のリスクファクターとなる。	1
18		日和見感染	抵抗力が弱まることで起こる病気	1
19		精神疾患	心身症/うつ病/自律神経不安定症/パニック障害	1
20		認知症	認知症の種類	1
21		自己免疫疾患膠原病（慢性関節リウマチ、全身性エリテマトーデスなど）や橋本病など	常な細胞や組織に対してまで過剰に反応して攻撃し	1
22		エイズ（後天性免疫不全症候群）	原因をよく理解する	1
23		危険因子 活性酸素/抗酸化物質/フィトケミカル/マルチプルリスクファクター等		1
24		がん/HIV/		1
25	男性、女性特有の病気	女性に起こりやすい、女性器官と特有の病気について理解する。骨粗しょう症/不定愁訴/貧血/	更年期以降女性のホルモンバランスがくずれ起こる病気について知る。	1
26		男性、女性のホルモン周期と器官、妊娠	生殖器の違いと妊娠のしくみを理解	1
27		男性、女性のホルモン周期と器官、妊娠	生殖器の違いと妊娠のしくみを理解	1
28	神経	交感神経と副交感神経、脳と神経についてしくみを学ぶ	言葉は聞いたことがあるが理解できていない部分を理解する。	1
29	ストレス	ストレスとは何か、ストレスの軽減、コントロールの方法について理解する(自律神経の働き含む)	ストレスの軽減についてアロマセラピーが心理的に有効であることを知る。	1
30	睡眠	健康を守るためには休養と睡眠が必要であり、睡眠についてのしくみを理解する。睡眠のサイクル、NON-REM睡眠の特色を知る。	神経との関係、人間にとって健康維持に大切な睡眠であることを理解する。	1

31	運動効果	運動効果について理解する。	病気を予防するうえでも、生活の質を上げるうえでも必要な知識を得る。	1	
		運動の種類と効果を知り、病気の予防と改善に活かす。			
32	栄養	栄養バランスを理解する。	人間が生きていくために食事の栄養不可欠であり、働きについて認識を持たせる。	1	
		6大栄養素とは、カロリーとの関係など基礎的知識を得る。			
33		各栄養素について	代謝、効果などについて	1	
34	ダイエット	前回学んだ運動と栄養を活用し、健康的なダイエットの正しい知識が得られるよう理解する。	学んだ知識を総括し、積極的に健康管理でき、アドバイスできるようにする。	1	
35	皮膚	アロマセラピーが体内に浸透する経路として皮膚から侵入し血液循環する重要な組織である。	日常のスキンケアアドバイスができるようにする。	1	
			日常のスキンケアアドバイスができるようにする。		
36		皮膚の構造詳細	自分の体でありながら、どこでどうつながり、動くのか知らない。自分で図に色を染めたり、自分の体を動かし名が位置を覚えられるよう指導。ボディトリートメントをするにあたり、筋肉や骨の位置、リンパを流すために正しい知識を習得する。	1	
		表皮と真皮			
37		皮膚トラブル/目肌タイプ		1	
38				1	
		ケラチン　メラトニン			
		保湿、弾力、はり、シミ、しわ等			
		コラーゲン、エラスチン、ヒアルロン酸			
39	筋肉	筋肉について名称と位置正しく覚える	自分の体でありながら、どこでどうつながり、動くのか知らない。自分で図に色を染めたり、自分の体を動かし名と位置を覚えられるよう指導。ボディトリートメントをするにあたり、筋肉や骨の位置、リンパを流すために正しい知識を習得する。	1	
40		筋肉の動きと腱		1	
41		肩こりに関する筋肉		1	
42	骨格	骨の役割と間接		1	
43		骨格について正しく覚える		1	
44	リンパ	リンパについて正しく覚える		1	
45		ワークブック			1
その他					

教科名： ビジネスマナー 1 (講義)			通期	教科担任：山本絵里子(実務経験教員)					
学科名：アロマケアサポート科			コース：		1年	単位数：	3 単位		
授業のねらい		実務経験のある指導者の下、マナーの心と立ち居振る舞いを身に付け、仕事に対する取り組み姿勢や職場とは何かを知る。職場の生活に適応できるための基礎的な知識やスキルを学ぶ。				135H			
目指す検定・資格		目標 ビジネス検定3級 全日本現代作法協会 初伝/中伝 取得可能な検定				教材費	1,000円		
テキスト・教材		現代礼法本科教科書 サクセス ビジネス能力検定3級テキスト 印刷教材 動画							
評価方法		前期 試験 ・レポート・課題で評価する				その他			
		後期 試験 ・レポート・課題で評価する							
時数	単元		授業内容（細目）				学習上の留意点		実時数
1	作法の心姿勢		作 法 案 内 基 本 精 神 茶 道 と 作 法 伝 統 と 儀 式 基本の姿勢				作法の歴史は形から入り、心を高めていく学習を進めていくことを理解する		5
	立居振舞								
2	礼・おじぎの仕方		洋間での立ち方 洋間での座り方 洋間での座礼・立ち礼・かけ礼 洋間での歩き方 自己紹介				美しい形を学ぶことにより自然な形を身につけ自分自身を磨く 動画配信		5
3			靴の扱い 和室での立ち方 礼・おじぎの仕方				基本動作を応用して美しい日常の動作をスムーズに行う・失われつつある日本人として大切な和の心を学ぶ		5
4	物の渡し方		持ち方、取り方、置き方 向きの変え方 渡し方				相手に対し、親切で安全な渡し方を身体全体で扱えるようになる		5
5	茶菓 1		茶菓の種類 基本的な飲み方、出し方				お茶とはどんなものかを理解		5
6	自己表現 贈答と見舞心得		カラーコラージュ 贈答の心得 見舞の心得 返礼の心得				自己表現の方法を学ぶ・贈り物は人間関係の潤滑油・送り主の気持ちを形に表すことを理解し、その具体的方法を学ぶ		5
7	包み方 受渡しの仕方		風呂敷の扱い・台付き帛紗の扱い 和紙の折型 水引・上書き・のし 洋風プレゼント・カード・リボン 受渡しの仕方 上座と下座				包む・結ぶ・たたみ方技法を学び、日本独自の美と奥ゆかしさを理解する・贈答のT P Oを学ぶ・接客の際の座席の位置を学ぶ		5
8	会話心得		敬語				敬意を簡潔に表現する・T P Oに応じて言葉づかいを使いわけ相手に心のこもった対応をする		5
	通信 話し方		はがき 手紙 ビジネス・レター 会話 スピーチ 紹介のしかた 名刺の扱い方				形式に乗っ取ることで相手に失礼がなく良い関係を築ける。		
9	キャリアと仕事へのアプローチ 仕事の基本となる8つの意識 コミュニケーションとビジネスマナーの基本		働く意識 仕事への取り組み方 一番大切なのは顧客意識 品質意識、納期意識、時間意識 目標意識と協調意識 改善意識とコスト意識 8つの意識の意味				社会とのかかわりの中で自分の役割を担ったキャリア形成が必要。将来像をイメージする。		5
			コミュニケーションの基本						
10	就業中のマナー		円滑なコミュニケーションのために 仕事中の態度と健康管理 入社から退社までの基本ルール				人と人とのつながりを大切に する診断テスト・健康管理は職場生活の基本を学ぶ		5

11	指示の受け方と報告・連絡・相談	5W2Hの考え方 指示を受けるポイント 報告の仕方 中間報告・相談と、忠告の受け方	要件をまとめるコツや上司の意図に従い効率的に行う	5
12	話し方と聞き方の基本	印象がよくビジネスにふさわしい話し方 ビジネスの場にふさわしいことばづかい 聞き方の基本	相手の立場になってわかりやすく、正しく聞くことは仕事の第一歩。	5
13	敬語の使い方 会議への出席とプレゼンテーション	尊敬語と謙譲語の組み立て方 場面や人間関係に応じた敬語表現 敬語の演習 会議の基本的な流れと意見発 会議でのプレゼンテーションの基本	正しい敬語の習得のため繰り返し演習・目的に応じた会議の進め方	5
14	電話応対	電話の受け方 電話のかけ方 電話の取りつきと携帯電話のマナー	電話はビジネスの重要なツール ネットによる対面授業	5
15	訪問のマナー	訪問の基本マナー 訪問先での面談の進め方 取引先とのつきあい 仕事関係でのつきあい	事前の準備から始まっている	5
16	仕事への取り組み	仕事は正確かつ計画的 定型業務・非定型業務とマニュアル 効率的・合理的な仕事の進め方 手帳の活用と名刺の整理	業務の種類を知る 情報の収集と整理 目的と手段を明確	5
17	企業の責任とコンプライアンス	社会人としてのルールと企業倫理 会社組織 会社の存在意義と株式会社の特徴	組織、社会の一員としての自覚・自分の役割と組織目標の明確化・組織の色々な基本を学ぶ	5
18	仕事とIT	パソコンは仕事のツール 電子メールの活用 電子メールの書き方 IT時代のビジネスセンスと個人情報保護	仕事を効率良くするためには不可欠。情報管理する・情報の保護	5
19	ビジネス文書の基本と社内文書の書き方 会社で扱う文書	ビジネス文書の意義と書き方 わかりやすい文章の書き方 社内文書の特徴と基本型 社内文書の種類と作成例 報告書の書き方 社外文書の特徴と基本構成 社外文書の種類と作成例 社外文書の決まりごと 封筒・宛名の書き方と配送・通信サービス	正確な伝達と共有 証拠としての保存	5
20	会社で扱う文書	社外文書の特徴と基本構成 社外文書の決まりごと 社外文書の種類と作成例 封筒・宛名の書き方と配送・通信サービス	会社を代表して、先方に敬意を表し、正確に意向を伝える	5

21	メディアと情報の収集	インターネットによる情報収集 新聞の読み方と活用方法 新聞記事を読む webマーケティング	メディアと欲しい情報を短時間 に収集効率的な読み方	5
22	情報の分析のための表と グラフ	表とグラフの役割と特徴 表の読み方・作り方 グラフの種類と作り方	グラフと表の特徴 数値把握が大切 数値のビジュアル化	5
23	業種・業界の知識	日本経済の基本構造と変化 経済環境の変化と企業 さまざまな業種と近年の動き①②	経済の時代による変遷と価値観 の変化 企業のグローバル化、環境業種 ごとの動向を知る	5
24	売上と利益 職場のルールと社会保 障・税金	企業活動の源泉は売上 売上・コスト・利益 就業規則と労働法 勤務条件と給与の仕組み 社会保障の種類と仕組み 税金の基礎知識 働き方改革	利益の大切さとコスト意識職場 の基本的なルールを知る・それ ぞれの言葉を理解する・労働条 件を知る・生活の保障の仕組み を知る	5
25	ビジネス用語の基本	最新の経済用語 良く使われる英語の略語	ニュース、新聞で聞く言葉を理 解する 略語が何を意味するか理解する	5
26	漢字の用法	間違いやすい漢字、同音異義語		5
27	練習問題	言葉の用法		2
28	練習問題	ケース問題①	仕事のトラブル	1
29	練習問題	ケース問題②	新聞記事を読みとく	1
30	練習問題	ケース問題③	新聞記事を読みとく	1
その他				

教科名：マーケティング1（講義）		通期	教科担任：山本絵里子（実務経験教員）			
学科名：アロマケアサポート科		コース：		1年	単位数：2単位	
授業のねらい		企業運営の経験を活かし、マーケティングについて指導する。物が売れる仕組みを作ることは社会にとって重要なことであり、クライアントからの商品開発やショップマスター、起業を考える上でもマーケティングは重要な基礎知識である。マーケティングの基本からwebの活用、ショップデザインに必要なビジュアルマーチャンダイジング、業界分析まで学ぶ。			90H	
目指す検定・資格		目標・なし 取得可能な検定			教材費	
テキスト・教材		知識ゼロからのマーケティング入門 広兼憲史著 印刷教材 50枚				
評価方法		前期 試験・レポート・課題 後期 試験・レポート・課題			その他	
時数	単元	授業内容（細目）			学習上の留意点	実時数
1	マーケティングとは	自分が欲しいものは何？ なぜ、人は買い物をするのか？ ニーズ、ウォンツ、シーズとは			問いかけにより経験を話し導入し、身近な課題だということを知らせる。	2
2	プロモーション戦略 ①ラジオ	FMラジオコンペに向けて本校CM案を作り、放送までの流れを知る ①ラジオCMの特徴と課題の提示			本校を選んだ動機をKJ法、マッピングでまとめる。	2
3		②ラジオCMの実例例を知る（プロのアドバイス提示） ③コピー、SE、ナレーションの構成要素 ④放送時間			事例を多く聞く	2
4		⑤作成			声に出して話す	2
5		⑥ブラッシュアップ				2
6	プロモーション戦略 ②テレビ	①ラジオCMとテレビCMの違い ②本校CM案課題提示、放送までの流れを知る				2
7	プロモーション戦略 ②テレビ	テレビCM絵コンテ作成				2
8	マーケティング 3Cとは	顧客、競合、自社を知る。			戦略の立案や計画の見通しに必要な知識を得る	2
9	STPとは	ターゲット、セグメンテーション、ポジショニング			市場と顧客の関係を理解する。	2
10	プロモーション戦略 ②テレビ	自身が作ったCMの発表				2
11	マーケティングミックス	4P、マーケティングの定義を知る。			売れるための仕組みづくりということを理解する。	2
12	ワークシート	各自進める				2
13	消費者心理について	顧客満足度を高めることの重要性を知る。			売るためには顧客を知る。 購買動機は何か1時間目を振り返りながら知識に結び付ける。	2
14	人の欲求の変化	人の欲求の変化(マズローの欲求の5段階)を知る。				2
15		A I D M Aの法則とは				2
16		時代で変化してきたAISAS SIPPSなどの最新のウェブ戦略における考え方の基礎			ネット時代の購買行動の変化を知る。	2
17	ライフスタイル	消費者分析として購買時期の分析、ライフスタイルがあることを知る。 イノベーター、オピニオンリーダー、AIO			人が購入するには	2
18	情報の収集と分析	マーケティングリサーチ			データの種類と収集方法	2
19	ワークシート	各自進める				2
20	自社と競合の分析	市場地位における戦略 リーダー、フォロワー、チャレンジャー ニッチャー			競争地位を知り、マネのできない差別化	2

21	経営資源の配布	PPMと	自分を商品として、就職活動に生かすためには、と身近に考える。	2
22	自社環境分析	SWOT分析	現状を把握し具体的な戦略へ	2
23	ワークシート	各自進める		2
24	製品戦略のポイントは	製品とは「便益の束」 製品の分類	消費者ニーズに合わせた製品を提供しつづけるためにはどのようにしたら良いか考える	2
25		製品ラインと製品ミックス	最適な製品の組み合わせを考える	2
26		ライフサイクルを知る。 計画的陳腐化	製品にも一生がある どのように計画していくか	2
27	ブランド戦略	ブランドの定義と役割	ブランドの基本戦略	2
28		ナショナルブランドとプライベートブランド	主体はメーカーか流通側か	2
29	パッケージング	パッケージデザインと商品化、新製品の提供までの流れを知る。		2
30	新製品開発	新製品田誕生までのプロセス	開発手順を系統立てる	2
31	ワークシート	各自進める		2
32	価格戦略とは	価格がどのように決められるか		2
33		コストプラス法	コストに利益をプラス	2
34		需要志向と競争志向	値ごろ感と競合会社	2
35		上澄み吸収価格戦略 市場浸透価格戦略	早めに利益を刈り取る 低価格でシェア獲得	2
36		製品ミックス、端数価格、威光価格、割引	消費者心理に基づいた価格戦略	2
37	ワークシート	各自進める		2
38	流通チャネル戦略	流通チャネルとは 流通チャネル政策	川上から川下までの流通チャネルを知り、卸、小売店の役割を知る。	2
39		垂直的マーケティングシステム	統合されたシステムとして機能	2
40		卸売業者、小売業者の役割	機能と分類	2
41	プロモーション戦略とは	テレビ、ラジオ、ネットの他の戦略を知り、プロモーションミックスを行う。	顧客が買いたくなるような刺激づくりが重要であることを知る。その方法は1つではない。	2
42		人的戦略、イベントなどの活用方法など具体的戦略を知る。		2
43	ワークシート①	各自進める	理解を深める	2
44	ワークシート②	各自進める	理解を深める	2
45	ワークシート③	各自進める	理解を深める	2
その他				

教科名：簿記 1（講義）			通期	教科担任：梅津隆雄			
学科名：アロマケアサポート科			コース：		1年	単位数：4 単位	
授業のねらい		基礎である適切な仕訳から財務諸表を読めるようになるまでを目標にする。学習内容をもとにして、全経簿記 3 級合格を目指す。			1 8 0 H		
目指す検定・資格		目標 全経簿記 3 級 取得可能な検定			教材費		
テキスト・教材		全経簿記能力検定試験公式テキスト・問題集 3 級					
評価方法		レポート 検定試験状況により評価する			その他		
時数	単元		授業内容（細目）			学習上の留意点	実時数
1	簿記の基本原則 （基礎概念、取引、勘定、帳簿）		損益計算書と貸借対照表との関係 主要簿、補助簿 伝票の集計・管理など前期の復習			前期の学習内容を復習	6
2	諸取引の処理		現金預金、売掛金・買掛金、手形、債権の譲渡、引当金、商品の処理			練習問題を数多くき、問題に慣れる	6
3	諸取引の処理		有形固定資産、収益と費用、税金の処理			練習問題を数多く解き、問題に慣れる	6
4	決算整理		当座借越の振替、商品棚卸、貸倒見積り、減価償却、貯蔵品棚卸			練習問題、過去問題を数多く解く	6
5	決算整理		収益・費用の前受け・前払い、未収・未払い			重要な箇所なのできちんと理解する	6
6	精算表		精算表の作成			検定の出題箇所になるので、時間を十分に取って練習する	6
7	精算表		精算表の作成			検定の出題箇所になるので、時間を十分に取って練習する	6
8	決算整理後残高試算表		決算整理後残高試算表の作成			検定の出題箇所になるので、時間を十分に取って練習する	6
9	振替処理		収益と費用の損益勘定への振替 純損益の繰越利益剰余金への振替			検定の出題箇所になるので、時間を十分に取って練習する	6
10	株式会社会計		資本金（設立・増資） 利益剰余金 剰余金の配当			検定の出題箇所になるので、時間を十分に取って練習する	6
11	全経簿記検定対策		過去問題集を繰り返し解く			繰り返し問題を解く	6
12	全経簿記検定対策		過去問題集を繰り返し解く			繰り返し問題を解く	6
13	全経簿記検定対策		過去問題集を繰り返し解く			繰り返し問題を解く	6
14	全経簿記検定対策		過去問題集を繰り返し解く			繰り返し問題を解く	6
15	全経簿記検定対策		過去問題集を繰り返し解く			繰り返し問題を解く	6
その他							

教科名：医療事務１（講義）				教科担任：山本 絵里子				
学科名：アロマケアサポート科 １年			コース：		１・２年	単位数：２単位		
授業のねらい			社会保障制度の一つである医療保険制度を理解する。 医科の診療報酬算定を学び、医療事務職の基本知識を習得する。外来診療に対応できる知識まで到達する。			９０H		
目指す検定・資格			目標： 医科医療事務管理士（２年次） 取得可能な検定			教材費	28,000円	
テキスト・教材								
評価方法			ソラスト：医科テキスト１～４／レポート集／ 医療事務管理士過去問題集 診療点数早見表			その他		
時数	レポート・試験により評価する		授業内容（細目）			学習上の留意点		実時数
１	医療保険制度		概要・医療保険制度の種類 地域保険と職域保険			複雑な医療保険制度の概要を理解する		6
２	医療保険制度		後期高齢者医療制度 医療保険給付			前期高齢者と後期高齢者の違い 現物給付と現金給付の違いを明確にする。		6
３	点数算定の原則 初診料 再診料		診療報酬の成り立ち・早見表の見方 基本診療料の初・再診点数計算			医療機関規模、年齢・受診時間 注意		6
４	医学管理等 投薬 レセプト作成基礎		医学管理等 投薬：院内処方・院外処方 レセプト作成の基礎を確認			薬剤料計算に慣れる		6
５	レセプト作成問題 注射		基本診療料から注射までのレセプト作成			単元のつながりを理解。注射の種類と算定方法		6
６	処置 リハビリ		処置点数の確認・時間外等加算・酸素加算・レセプトの書き方			処置範囲 複数処置 薬価・酸素加算。レセプト記載等が複雑化するので注意		6
７	在宅医療		往診・在宅自己注射指導管理料を中心に学ぶ			基本診療料と往診料の時間帯に注意する		6
８	レセプト作成問題		疾患別リハビリの理解 処置リハビリまでのレセプト作成			リハビリと処置の関係。レセプト書きで処置点数を習得		6
９	検査（検体・生体） 病理診断		検体検査・生体検査 病理診断点数			疾患名と検査を組み合わせることで、具体的な理解をする		6
10								6
11	画像診断		エックス線診断核医学診断 コンピュータ断層撮影診断			複数の撮影診断の組み合わせの点数算定		6
12	手術 麻酔		手術点数・輸血、麻酔			注の加算と通則の加算の重複時		6
13	精神科専門療法 ・放射線治療		手術レセプト作成。 精神科専門療法・放射線治療					6
14	外来レセプト作成		レセプト作成 診療報酬付随問題			算定ルールの理解度を確認		6
15	外来レセプト作成		レセプト作成 診療報酬付随問題			算定ルールの理解度を確認		6
その他								

教科名：パソコン実習 1（実習）			通期	教科担任：梅津 隆雄（実務経験教員）			
学科名：アロマケアサポート科			コース：		1年	単位数：3 単位	
授業のねらい		情報系で実務経験のある指導者の下、機能をひとつずつ理解し、機能を実行するための操作方法を習得する。MO S試験検定取得を目標とする。			9 0 H		
目指す検定・資格		目標 取得可能な検定 MO S試験検定			教材費		
テキスト・教材		よくわかるマスターWord 2019 Expert 対策テキスト &問題集 印刷教材					
評価方法		試験 課題により評価する			その他		
時数	単元		授業内容（細目）			学習上の留意点	実時数
1	文書の表示と管理		文章のズームや分割 ウインドウに文章を表示する 整列			文章をさまざまな方法で保護、管理、保存できるようにする。	4
2	文書の表示と管理		文章のズームや分割 ウインドウに文章を表示する 整列			文章をさまざまな方法で保護、管理、保存できるようにする。	4
3	文書の表示と管理		ファイルの種類の変更 電子メールで文章を送信する			文章をさまざまな方法で保護、管理、保存できるようにする。	4
4	書式設定		フォトと段落 文章の移動			表の作成、表を操作できるようにする。さまざまな書式設定ができるようにする。	4
5	書式設定		フォトと段落 文章の移動			表の作成、表を操作できるようにする。さまざまな書式設定ができるようにする。	4
6	書式設定		表作成 インデント タブの設定 行間隔			表の作成、文字を表に転換する。文書内の表を操作できるようにする。	4
7	書式設定		表作成 インデント タブの設定 行間隔			表の作成、文字を表に転換する。文書内の表を操作できるようにする。	4
8	書式設定		表作成 インデント タブの設定 行間隔			表の作成、文字を表に転換する。文書内の表を操作できるようにする。	4
9	書式設定		表作成 インデント タブの設定 行間隔			表の作成、文字を表に転換する。文書内の表を操作できるようにする。	4
10	書式設定		箇条書き 段落番号			箇条書きを設定し、文書の内容を整理できるようにする。	4
11	書式設定		箇条書き 段落番号			箇条書きを設定し、文書の内容を整理できるようにする。	4
12	練習問題		練習問題を解く			理解を確認する。	4
13	練習問題		練習問題を解く			理解を確認する。	4
14	練習問題		練習問題を解く			理解を確認する。	4
15	練習問題		練習問題を解く			理解を確認する。	4
その他							

教科名：自主研究 1 （講義）			通期	教科担任：堀川栄美子		
学科名：アロマケアサポート 科			コース：	1年	単位数：2 単位	
授業のねらい		各自、自分の学習目標を設定し深めていく。			6 0 H	
目指す検定・資格		目標 取得可能な検定			教材費	
テキスト・教材		学習内容によって異なる。				
評価方法		レポート 課題 検定試験状況により評価する			その他	
時数	単元	授業内容（細目）			学習上の留意点	実時数
1	目標設定	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて検討する。			目標やテーマについて計画を立てる。	4
2	目標設定	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて検討する。			目標やテーマについて計画を立てる。	4
3	目標設定	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて検討する。			長期目標を見据えて短期・中期目標を修正する。	4
4	課題について	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			長期目標を見据えて短期・中期目標を修正する。	4
5	課題について	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			長期目標を見据えて短期・中期目標を修正する。	4
6	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			長期目標を見据えて短期・中期目標を修正する。	4
7	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			各自課題の理解を深め、取り組む	4
8	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			確認をしながら各自課題の理解を深め取り組む。	4
9	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			確認をしながら各自課題の理解を深め取り組む。	4
10	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			確認をしながら各自課題の理解を深め取り組む。	4
11	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			確認をしながら各自課題の理解を深め取り組む。	4
12	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			確認をしながら各自課題の理解を深め取り組む。	4
13	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			確認をしながら各自課題の理解を深め取り組む。	4
14	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			確認をしながら各自課題の理解を深め取り組む。	4
15	総まとめ 報告	達成度の確認を行う。			総合的な仕上げ 達成度を自己評価する。	4
その他						

教科名：フィットネス実技1（実技）			通期	教科担任：山本絵里子(実務経験教員)		
学科名：アロマケアサポート科			コース：	1年	単位数：1 単位	
授業のねらい		実務経験教員指導のもと ・体操、トレーニング等の正しい方法を学習し、個々が健康維持増進の為に行える知識・技能を身に付ける。 ・レクリエーションスポーツの種類、ルールを学習し、年齢、男女等の差を克服した実施方法の演習。			3 0 H	
目指す検定・資格		目標 取得可能な検定			教材費	
テキスト・教材						
評価方法		学期 最終授業時に実施する実技試験・口頭質問、授業態度、出席状況を総合して評価する。			その他	
時数	単元	授業内容（細目）			学習上の留意点	実時数
1	オリエンテーション	体を動かすことの大切さ			正しいフォームとシチュエーション	1
2	基本体操の名称と実技	ウォーキング(基礎の形)			正しいフォームとシチュエーション	1
3		スキップ等			正しいフォームとシチュエーション	1
4		ウォーキング(街に出る)			正しいフォームとシチュエーション	1
5	ストレッチの技法と実技	拮抗する筋肉の動き			筋肉は拮抗して働く。普段意識して使わないが部位ごとに感覚掴む	1
6		自動的ストレッチ			筋肉は拮抗して働く。普段意識して使わないが部位ごとに感覚掴む	1
7		他動的ストレッチ			筋肉は拮抗して働く。普段意識して使わないが部位ごとに感覚掴む	1
8		静的ストレッチ			筋肉は拮抗して働く。普段意識して使わないが部位ごとに感覚掴む	1
9		動的ストレッチ			筋肉は拮抗して働く。普段意識して使わないが部位ごとに感覚掴む	1
10	アイソメトリックス	・自重負荷トレーニング（1人）			止まった状態で力を出す” のが「アイソメトリックス」	1
11		・自重負荷トレーニング（2人）			止まった状態で力を出す” のが「アイソメトリックス」	1
12		・フリーウェイト			止まった状態で力を出す” のが「アイソメトリックス」	1
13		・マシン			止まった状態で力を出す” のが「アイソメトリックス」	1
14	アイソトニックス	身近な机やイス、ペットボトルなどを使う			動かしながら力を出す” 「アイソトニックス」	1
15	スピードトレーニング	反復横跳び 反射運動				1
16	最新トレーニングの実際	S A Qトレーニング			スピード、アジリティ、クイックネスは、ゼネラルスキルを構成する要因で、これらを高めることで包括的にゼネラルスキルを高める	1
17		S A Qトレーニング			スピード、アジリティ、クイックネスは、ゼネラルスキルを構成する要因で、これらを高めることで包括的にゼネラルスキルを高める	1
18		バランスボール			バランスボールを活用し体幹を整える	1
19		バランスボール			バランスボールを活用し体幹を整える	1

20		PNFトレーニング	身体に備わる「反射」を促通手技の結果として反応させて神経、筋機能の向上、各関節の可動域らの回復を図る	1
21		PNFトレーニング	身体に備わる「反射」を促通手技の結果として反応させて神経、筋機能の向上、各関節の可動域らの回復を図る	1
22	屋外におけるレクリエーションスポーツ（ニュースポーツ）	・フライングディスク（アルティメット、ディスクゴルフ等）	ニュースポーツを体験し、イベント等で活用できるようになる	1
23		・ターゲットバードゴルフ	ニュースポーツを体験し、イベント等で活用できるようになる	1
24		・キックベース	ニュースポーツを体験し、イベント等で活用できるようになる	1
25		・ソフトバレーボール	ニュースポーツを体験し、イベント等で活用できるようになる	1
26		・チェックボール 等	ニュースポーツを体験し、イベント等で活用できるようになる	1
27	全身持久力運動	ランニング（フォームチェック）	糖と脂肪を燃やし心肺機能を増やす。	1
28		ランニング（長距離）		1
29		インターバルトレーニング		1
30		サーキットトレーニング		1
その他				

教科名：アロマテラピー2（講義）			通期	教科担任：山本絵里子(実務経験教員)			
学科名：アロマケアサポート科			コース：		2年	単位数：	2単位
授業のねらい			実務経験教員のもとアロマテラピーに関する知識を備え、安全面や法律面から正しく社会に伝えることができる能力を持ち、アロマ関連のショップなどで販売に携わり、一般の方々に安全なアロマテラピーについてアドバイスできるようになる。			90H	
目指す検定・資格			目標 アロマテラピーアドバイザー 環境カオリスタ検定 取得可能な検定 ナチュラルビューティスタイリスト検定			教材費	
テキスト・教材			アロマテラピー検定公式テキスト 印刷教材 和製油セット アロマテラピー検定公式問題集エッセンシャルオイル検定対応1級B				
評価方法			前期 試験 ・レポート・課題にて評価とする 後期 試験 ・レポート・課題にて評価とする			その他	
時数	単元		授業内容（細目）				
1	アロマテラピーの基本		アロマテラピーを安全に使うための注意と利用法 実習 芳香浴			健康に活かし、安全に楽しむためにプロとして指導するために何度も注意を確認しておく。	2
2	アロマテラピーを利用する際の注意		精油の安全な使い方を順守 自己責任の原則			パッチテスト、精油の取り扱い注意事項がわかる	2
トラブルが生じた場合の対処 衛生管理、保存				2			
3			注意すべき対象者 病気による禁忌/お年寄り/既往歴/妊婦/ 子ども			精油を使用する人の健康状態や体質、感受性などに注意を払うことが必要	2
4							
5	基材		希釈濃度と計算			個人の肌タイプや感受性、使用時の体調、使用する部位や時間帯などに応じて希釈濃度を決める	2
6	精油の伝達経路		血液循環によって全身に行きわたる経路			芳香成分がどのように脳や身体に働くかのメカニズムを学ぶ	2
7			嗅覚による伝達経路				2
8			呼吸、その他			伝達経路としての脳と皮膚の構造について部位名称を知る	2
9			脳のしくみ				2
10			皮膚の仕組み				2
11	実習		クレイパック			ミネラルたっぷりのクレイ（粘土）を使ったパックで、余分な皮脂や毛穴の汚れを吸着させて取り除く効果	2
12	精油の特性		精油の科名と学名 別名			性質の違い、共通性を理解する。	2
13	精油の		抽出部位からの特性				2
14	プロフィール		産地、由来による特性				2
15			精油の化学性 有機化合物とは 精油の化学的分類(精油成分) 化学性から見た作用			精油のそれぞれの香りから受ける印象を大切にし、特色を覚える。	2

16		ローマン・カモミール/フランキンセンス/ ティートリー/クラリセージ/ゼラニウム ベルガモット/グレープフルーツ/スイートマージョラム/レモングラス/ジュニパーベリー/	各精油の特性を知り、 有益であるが危険な性質をもつものがあるので、十分な知識をもったうえで扱う	2
19		精油の特性とプロフィールを一致させる		2
21		ワークブック		2
22	実習	香りで涼しさを演出する手法を学ぶ ハーブアレンジメント+保水ジェル+ミント	体感温度にも影響を及ぼすことができる。より涼しさを演出する。	2
23	その他の香り	和製油を楽しもう 日本独自の香り ゆず ヒノキ 月桃等	産地で地方創生の産物として活用されていることを知る	2
24	キャリアオイルの特性	キャリアオイルの種類と特性	どのような種類があるか、色、浸透性、粘性、酸化(ヨウ素価)	2
25		キャリアオイルの化学性 飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸		2
26	実習	ハーブティーで香りを味わおう	ハーブの香りを身体の内側から楽しむ	2
27	アロマテラピーと食事	健康的な生活とは 栄養・運動・休養について知る	QOLや恒常性を高める	2
28		食生活と栄養 食事の役割や、主な栄養素の働きについて 理解し、バランスのとれた食生活を送る	身体の細胞を作り、それらが正しく働くようにするには 健康的な食生活が欠かせない。	2
29		栄養と栄養素 5大栄養素		2
30		バランスの良い食事		2

31		必要なエネルギー		2
32	実習	アロマキャンドル 好みの香りとデザインのキャンドルで演出	虫よけキャンドルへの応用	2
33	アロマセラピーと運動	運動の効果	健康を維持・増進する助けとなるのが運動	2
34		有酸素運動と無酸素運動 有酸素運動と無酸素運動	運動の違いや効果を知り、個人の体力や目的に応じて取り入れる	2
35		運動への取り入れ方	心身のコンディショニングに活用されている	2
36	疲労と休養・睡眠	疲労と休養	休養や睡眠についての理解を深め、疲労をためない工夫をする	2
37		睡眠 レム睡眠とノンレム睡眠 睡眠の質		2
38		活用の仕方	体内リズムを整えるのに役立ち 快適な休養・睡眠のために、アロマセラピーを活用する。	2
39	生活習慣病	代表的な生活習慣病について	生活習慣病は重大な疾患にもつながる。	2
40	ストレスとメンタルヘルス	ストレスとストレッサー	ストレス症状をやわらげ、心身のバランスを整える	2
41	ライフステージと健康	女性の健康 特に女陸の場合はライフステージによりホルモンのバランスが崩れる	ライフステージに合わせたアロマセラピーでストレスケアを行うことで、生活が豊かに楽しく。	2
42	アロマセラピーの関連法規	医薬品医療機器等法/製造物責任法/ 消防法/景品表示法/医師法/獣医師法 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律/	専門の法律はないが、代表的な関係する法律を理解する	2
43	ワークブック	健康全般		2
その他				

教科名： ハーブ1（講義）		通期	教科担任：堀川 栄美子		
学科名： アロマケアサポート科		コース：	2年	単位数：	

教科名：健康学 2 (講義)			通期	教科担任： 山本絵里子(実務経験教員)		
学科名：アロマケアサポート科			コース：		2年	単位数： 2単位
授業のねらい		実務経験のある指導者の下、体の器官、構造を良く知り、健康管理や病気予防にアロマセラピーを上手に活用し健康に役立てるために利用者にアドバイスできる知識を学ぶ。			90H	
目指す検定・資格		目標 アロマセラピーインストラクター アロマセラピスト 取得可能な検定			教材費	
テキスト・教材		アロマセラピーインストラクター、アロマセラピスト公式テキスト「共通カリキュラム」「独自カリキュラム」 印刷教材				
評価方法		前期 試験 ・レポート・課題により評価する 後期 試験 ・レポート・課題により評価する			その他	
時数	単元		授業内容（細目）		学習上の留意点	実時数
1	健康学		健康とは 健康的な生活とは		健康の定義と本人、外部環境、生活習慣による3つの要因で管理	1
2	栄養		食生活と栄養素		健康管理において大切な食生活を栄養素ごと確認する	1
3			炭水化物 糖質、食物繊維			1
4			タンパク質 必須アミノ酸 BCAA			1
5			脂質 中性脂肪、コレステロール、リン脂質			1
6			ビタミン 代謝と吸収の関係			1
7			ミネラル 身体の機能調整への役割			1
8			健康的食生活 ライフステージと食生活		成長発達と食生活のポイント	1
9	ワークシート					1
10	運動		運動効果と注意 運動エネルギー		運動は大切あるが量や質が適切でないとは疲労やけがなど引き起こす。	1
11	疲労と休養		疲労と休養		疲労のメカニズムを理解し休養の必要性を学ぶ	1
睡眠 睡眠の質 概日リズムと睡眠障害			不眠症、過眠症、睡眠時随伴症 睡眠時無呼吸症候群等	1		
13	疲労と休養			睡眠 睡眠の質 概日リズムと睡眠障害		
14			肥満 内脂肪型 皮下脂肪型 メタボリックシンドローム、ロコモシンドローム		肥満の種類と原因	1
15			脂肪の役割と正しい肥満の知識 リンゴ型 洋梨型 隠れ肥満		肥満の型別特徴	1

16	健康管理	正しい減量法	どのような方法があるか正しくする。	1
17		カロリー計算 食事の計算	摂取カロリー計算と消費カロリー、基礎代謝のバランスをとる	1
18		運動強度カロリー計算	運動強度の計算方法	1
19		身体活動の評価(自分)	身体活動の評価を行い、過多の運動や減量とならず、病気予防や健康管理に役立てるアドバイスできるようになる	1
20		身体活動の評価(他者)		1
21	解剖生理学	恒常性	アロマテラピーは視床下部、恒常性に影響を及ぼす	1
22		身体の発生 細胞 組織 器官	身体の基本構造、機能について学習する	1
23		呼吸器系		1
24		呼吸器系		1
25		消化器系		1
26				1
27		泌尿器系		1
28				1
29		循環器系		1
30				1
31		神経系		1
32				1
33		内分泌系		1
34				1
35		免疫系		1
36				1
37		感覚器系		1
38		便排泄のメカニズム	水分調整について日々の管理の知識	1
39		排尿のメカニズム		1
40	ワークシート			1
41	衛生管理	微生物の種類と病原体	感染症とはどのようなものか。感染症の予防、病原体の防除法を学び、自身の健康管理を大切にし、受け手に適切なアドバイスを行う	1
42		感染と感染経路		1
43				
444		アロマテラピートリートメントにおける衛生管理		1
45	ワークシート			1
その他				

教科名： ビジネスマナー 2（講義）			通期	教科担任：山本絵里子（実務経験教員）			
学科名： アロマケアサポート科			コース：FS FD KM		2 年	単位数：	

16		長寿の祝い 新築披露	様々な祝い	2
17	祭 の 章	伝統行事 年中行事（催し方・祝い方）	企業イベントとしても活用する	2
18	人前での話し方 日常会話	大勢の前で上がらずに印象よく話す	スピーチのポイント	2
19	演出法	もてなしの演出 （和風・洋風）		2
20	マナー	配膳法 供し方 いただき方		2
21	結 び 方	装飾結び 作業結びふろしきの包み方	縁を結ぶ、心を包む	2
22	抹 茶	薄茶のたて方 冷たい抹茶	日本伝統文化を知る 知っていれば自由な行動ができる	2
23	香	聞香 （灰手前・香手前）		2
24	物の扱い方	掛軸巻物 屏風 硯箱		2
25	国際マナー	基本のルール	国際人として国による表現の違い、言葉を理解する	2
26		ボディランゲージ五ヶ国語日常会話		2
27	パーティーのマナー	パーティーの種類	国際人としてパーティーの目的に合った振る舞いができる	2
28		服装おしやれ		2
29	エレガンスを磨く	写真 表情・ポーズ	より良い印象づくり	2
30	自分を知り、仕事への意欲を高める	自己点検のためのアンケート	受講生が無意識に考えていることを聞き、自己点検評価を進めるための資料	2
31		過去の自分を振り返ろう	自己分析	2
32		頑張ったこと力を入れたこと		2
33		自己分析STEP1-3		2
34		自分を知る ワークシート		2
35		コミュニケーション能力/分析力 管理／遂行能力/計画／企画力 自分の能力	社会的自己分析	2
36		会社探しワークシート_タテヨコナナメ	目標を定めて自分を表現する	2
37		志望動機作成チェックリスト		2
38		自己PRを考えるワークシート		2
39		自己PR補強ワーク[1]		2
40		履歴書、エントリーシート作成	ワークシートをもとに	2
41	プレゼンテーションスキル	顔の表情 目線 首 笑顔	視覚的印象を上げる	2
42		発声 発語	早口言葉 活舌	2
43		声の出し方 色 表現、	音としてのメッセージ	2
44		メッセージの構成	文章構成と速さ	2
45				
の他				

教科名：簿記2（講義）		通期	教科担任：梅津隆雄		
学科名：アロマケアサポート科		コース：	2年	単位数：4単位	
授業のねらい		適切に仕訳をすることから財務諸表を読めるようになるまでの指導授業を行う。1年次の全経簿記検定受験を基礎にして、日商簿記検定3級合格を目指す。		180H	
目指す検定・資格		目標 日商簿記検定3級 取得可能な検定		教材費	
テキスト・教材		日商簿記ゼミ 教本・問題演習 3級 他			
評価方法		レポート・検定試験状況により評価する		その他	
時数	単元	授業内容（細目）		学習上の留意点	実時数
1	簿記の基礎	仕訳と転記・試算表の種類		仕訳・転記のルールを理解	12
	期中取引の仕訳	1. 現金取引 2. 銀行預金取引		総勘定元帳への転記は混乱しやすいので注意	
2	期中取引の仕訳	3. 小口現金取引 4. 商品売買取引 5. 掛け取引		分記法・3分法の違いを理解する。	12
3	期中取引の仕訳	6. クレジット売掛金 7. 手形取引 8. 有形固定資産取引		2級の範囲が格上げになったところもあるので注意	12
4	期中取引の仕訳	9. その他の債権・債務取引 10. 税金の処理 11. 訂正仕訳		細かい仕訳が多いので練習問題を多く解く	12
5	株式会社の会計 決算・決算整理	株式会社の設立・剰余金の配当と処分 決算手続き～収益・費用の未収・未払い		決算整理～精算表は数多く練習問題を解く	12
6	決算・精算表	精算表の作成		決算整理～精算表は数多く練習問題を解く	12
7	決算・主要簿の締め切り	総勘定元帳の各勘定口座の締め切り 仕訳帳の締め切り		練習問題を多く解く	12
8	決算・貸借対照表、損益計算書の作成	貸借対照表の作成 損益計算書の作成		もっとも重要な箇所なのでしっかり説明し、理解する	12
9	伝票	3伝票制 伝票からの転記		練習問題を多く解く	12
10	日商簿記検定試験対策	過去問題集を解く		繰り返し問題を解き、問題に慣れる	12
11	日商簿記検定試験対策	過去問題集を解く		繰り返し問題を解き、問題に慣れる	12
12	日商簿記検定試験対策	過去問題集を解く		繰り返し問題を解き、問題に慣れる	12
13	日商簿記検定試験対策	過去問題集を解く		繰り返し問題を解き、問題に慣れる	12
14	日商簿記検定試験対策	過去問題集を解く		繰り返し問題を解き、問題に慣れる	12
15	日商簿記検定試験対策	過去問題集を解く		繰り返し問題を解き、問題に慣れる	12
その他					

教科名：医療事務 2(講義)			通期	教科担任：山本絵里子	
学科名：アロマケアサポート科			コース：	2年	単位数：2 単位
授業のねらい		1 年次の外来診療を基本にして、入院診療について学ぶ。病院・有床診療所の診療報酬算定に対応できるレベルまで到達する。また、医療事務管理士合格を目指す。		9 0 H	
目指す検定・資格		目標　：　医科医療事務管理士 取得可能な検定		教材費	
テキスト・教材		ソラスト：医科テキスト 1 ～ 4 ／レポート集／ 医療事務管理士過去問題集　診療点数早見表 医療秘書検定 3 級問題集①②			
評価方法		レポート　試験　検定試験状況により評価する		その他	
時数	単元	授業内容（細目）		学習上の留意点	実時数
1	外来診療 レセプト作成	1 年次の外来診療学習の復習を行う。			6
2	外来診療 レセプト作成	1 年次の外来診療学習の復習を行う。			6
3	外来診療 レセプト作成	1 年次の外来診療学習の復習を行う。			6
4	入院料	入院基本料・各種		入院料は日数が点数に影響するので、日数数え違いに注意する	6
5	入院料	特殊な入院料（外泊・再入院）		入院日数と点数計算の関係が複雑になるので注意する	6
6	入院に係る特掲診療料	入院時に独自の算定を行う点数		外来・入院での違いを意識して学ぶ	6
7	レセプト作成問題 （入院）	入院　レセプト作成 各種加算、特掲診療算定を理解する		外来との違いを意識して算定する	6
8	レセプト作成問題 （入院）	入院　レセプト作成 各種加算、外泊、再入院等のケースを理解する		外来との違いを意識して算定する	6
9	レセプト作成問題 （入院）	入院　レセプト作成 各種加算、外泊、再入院等のケースを理解する		外来との違いを意識して算定する	6
10	レセプト作成問題 （入院）	入院　レセプト作成 各種加算、外泊、再入院等のケースを理解する		外来との違いを意識して算定する	
11	医療事務管理士 問題集Ⅰ	実試験時間で問題集を解く。 学科 1 時間　実技 3 時間		所定時間と内容量のバランスを確認。	6
12	医療事務管理士 問題集Ⅱ	実試験時間で問題集を解く。 学科 1 時間　実技 3 時間		所定時間内で解き終わることを目指す	6
13	医療事務管理士 問題集Ⅲ	実試験時間で問題集を解く。 学科 1 時間　実技 3 時間		所定時間内で解き終わることを目指す	6
14	医療事務管理士 問題集Ⅳ	実試験時間で問題集を解く。 学科 1 時間　実技 3 時間		所定時間内で解き終わることを目指す	6
15	医療事務管理士 問題集Ⅴ	実試験時間で問題集を解く。 学科 1 時間　実技 3 時間		所定時間内で解き終わることを目指す	6
その他	学習途中でのレポート提出を求める				

教科名： パソコン実習 2 （実習）		通期	教科担任： 梅津隆雄（実務経験教員）		
学科名：アロマケアサポート科		コース：	2年	単位数：2 単位	
授業のねらい		情報系で実務経験のある指導の下、パソコンの基本操作を習得する。 コンピュータを使いこなすためのリテラシーを習得し、MO S の学習に取り組み検定取得を目的とする。		6 0 H	
目指す検定・資格		目標 取得可能な検定 MO S 試験		教材費	
テキスト・教材		よくわかるマスターWord 2019 Expert 対策テキスト&問題集 印刷教材			
評価方法		レポート・検定試験状況により評価する		その他	
時数	単元	授業内容（細目）		学習上の留意点	実時数
1	レイアウト	ページのレイアウトをする。		背景の色を設定し背景にグラデーションなど書式を設定できるようにする。	4
2	レイアウト	ページのレイアウトをする。 ページの背景		文章の背景に図を透かして表示できるようにする。テキストボックスの挿入。	4
3	レイアウト	ページのレイアウトをする。		罫線を設定し、 挿入 削除を行う。	4
4	レイアウト	ページのレイアウトをする。		日付や時刻を挿入できるようにする。ヘッダーやフッターの編集、削除。	4
5	資料作成①	練習問題を作成する		学習した内容確認のため練習問題を繰り返し解く。	4
6	資料作成②	練習問題を作成する		学習した内容確認のため練習問題を繰り返し解く。	4
7	図や画像の挿入	図 サイズ アート トリミング		撮影した写真やイメージスキャナーで取り込んだイラストや画像を文章に挿入できるようにする。	4
8	図や画像の挿入	図 サイズ アート トリミング		図形 ワードアートを挿入する。	4
9	図や画像の挿入	グラフィックサイズ グラフィック移動		デザイン性の高い図解を学ぶ。	4
10	資料作成③	練習問題を作成する		学習した内容確認のため練習問題を繰り返し解く。	4
11	資料作成④	練習問題を作成する		学習した内容確認のため練習問題を繰り返し解く。	4
12	資料作成⑤	練習問題を作成する		学習した内容確認のため練習問題を繰り返し解く。	4
13	資料作成⑥	練習問題を作成する		学習した内容確認のため練習問題を繰り返し解く。	4
14	資料作成⑦	練習問題を作成する		学習した内容確認のため練習問題を繰り返し解く。	4
15	資料作成⑧	練習問題を作成する		学習した内容確認のため練習問題を繰り返し解く。	4
その他					

教科名：教科名 自主研究 2 （講義）			通期	教科担任：堀川栄美子		
学科名：アロマケアサポート 科			コース：		2年	単位数：2 単位
授業のねらい		各自、自分の学習目標を設定し深めていく。			6 0 H	
目指す検定・資格		目標 取得可能な検定			教材費	
テキスト・教材		学習内容によって異なる。				
評価方法		レポート 課題 検定試験状況により評価する			その他	
時数	単元	授業内容（細目）			学習上の留意点	実時数
1	目標設定	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて検討する。			目標やテーマについて計画を立てる。	4
2	目標設定	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて検討する。			目標やテーマについて計画を立てる。	4
3	目標設定	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて検討する。			長期目標を見据えて短期・中期目標を修正する。	4
4	課題について	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			長期目標を見据えて短期・中期目標を修正する。	4
5	課題について	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			長期目標を見据えて短期・中期目標を修正する。	4
6	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			長期目標を見据えて短期・中期目標を修正する。	4
7	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			各自課題の理解を深め、取り組む	4
8	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			確認をしながら各自課題の理解を深め取り組む。	4
9	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			確認をしながら各自課題の理解を深め取り組む。	4
10	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			確認をしながら各自課題の理解を深め取り組む。	4
11	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			確認をしながら各自課題の理解を深め取り組む。	4
12	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			確認をしながら各自課題の理解を深め取り組む。	4
13	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			確認をしながら各自課題の理解を深め取り組む。	4
14	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			確認をしながら各自課題の理解を深め取り組む。	4
15	総まとめ 報告	達成度の確認を行う。			総合的な仕上げ 達成度を自己評価する。	4
その他						

教科名： トリートメント実技1 （実習）			通期	教科担任：山本絵里子 （実務経験教員）			
学科名： アロマケアサポート科			コース：		2 年	単位数： 1 単位	
授業のねらい		実務経験のある指導者の下、精油を希釈したトリートメントオイルを身体や顔に塗布する方法を学ぶ。リラクゼーション、保湿、整肌、血行、促進、筋肉の凝りを和らげるなどの効果がある。セルフトリートメントから基本的なトリートメント技術も学ぶ。			3 0 H		
目指す検定・資格		目標 アロマセラピー検定（1級・2級）環境カオリスタ検定 取得可能な検定 アロマハンドセラピスト			教材費		
テキスト・教材		アロマハンドセラピスト検定公式テキスト アロマピスト公式テキスト(独自) 印刷教材 DVD					
評価方法		前期 試験 ・レポート・課題により評価 後期 試験 ・レポート・課題により評価			その他		
時数	単元		授業内容（細目）			学習上の留意点	実時数
1	トリートメントの利用		トリートメントオイルの作り方			ボディ用とフェイス用では、精油の希釈濃度が異なるので注意。	
2	ボディトリートメント 講義		手指の使い方、押し方、注意事項などボディトリートメントの基礎技術を学ぶ。			リラクゼーション。保湿、整肌、血行、促進、筋肉の凝りを和らげるなどの効果がある。	
3	手技基礎		手技の種類と効果、注意事項などボディトリートメントの基礎技術を学ぶ。			指の使い方、腕の動かし方、施術者の姿勢など効果と共に基礎知識を得る。	
4	ツボを知る		耳ツボ			不調が起こると痛気持ちいい場所を探して何となく手を当てたり、押ししたりしている。 トリートメントを行う上では中医学も活用する。 絵を描いて、場所を確認し自分で押して覚えていく。	
5			顔ツボ				
6			手ツボ				
7			足ツボ				
8			背中 of ツボ				
9			お腹のツボ				
10	確認		動画				
11	セルフトリートメント		セルフトリートメントの技術を学ぶ			どのような手の動きが気持ちいいのか確認しながら、力を入れすぎず、手のひらを密着させるように行う。	1
12	部分実習		①顔のトリートメント				1
13			セルフトリートメントの技術を学ぶ ②手のトリートメント				1
14			③足のトリートメント				1
15	基本手技を習得する		軽擦法、強擦法を練習する			手のひらを密着させる	1

16		揉捏法を練習する	もむ、こねる、絞る	1
17		即打法、振顫法を練習する	刺激を与える	1
18		圧迫法を練習する	ツボを深く押す	1
19		運動法を練習する	関節の可動域を広げる	1
20	ボディトリートメント 実習	顔のトリートメント	受け手を変えて体格や感じ方は人によって違うため、力加減、スピードなど心地好いと思われる施術を部分ごとに体験を通して獲得する。	1
21		下半身(前面)のマッサージ基礎を学ぶ		1
22				1
23		上半身(前面)のマッサージ基礎を学ぶ		1
24				1
25		上半身(後面)のマッサージ基礎を学ぶ		1
26				1
27		下半身(後面)のマッサージ基礎を学ぶ		1
28				1
29				1
30		全身のマッサージを習得する		1
その他				

教科名：アロマテラピー2（講義）			通期	教科担任：山本絵里子(実務経験教員)			
学科名：アロマケアサポート科			コース：		2年	単位数：2単位	
授業のねらい		実務経験教員のもとアロマテラピーに関する知識を備え、安全面や法律面から正しく社会に伝えることができる能力を持ち、アロマ関連のショップなどで販売に携わり、一般の方々に安全なアロマテラピーについてアドバイスできるようになる。			90H		
目指す検定・資格		目標 アロマテラピーアドバイザー 環境カオリスタ検定 取得可能な検定 ナチュラルビューティスタイリスト検定			教材費		
テキスト・教材		アロマテラピー検定公式テキスト 印刷教材 和製油セット アロマテラピー検定公式問題集エッセンシャルオイル検定対応1級B					
評価方法		前期 試験 ・レポート・課題にて評価とする 後期 試験 ・レポート・課題にて評価とする			その他		
時数	単元		授業内容（細目）			学習上の留意点	実時数
1	アロマテラピーの基本		アロマテラピーを安全に使うための注意と利用法 実習 芳香浴			健康に活かし、安全に楽しむためにプロとして指導するために何度も注意を確認しておく。	2
2	アロマテラピーを利用する際の注意		精油の安全な使い方を順守 自己責任の原則			パッチテスト、精油の取り扱い注意事項がわかる	2
トラブルが生じた場合の対処 衛生管理、保存				2			
3			注意すべき対象者 病気による禁忌/お年寄り/既往歴/妊婦/子ども			精油を使用する人の健康状態や体質、感受性などに注意を払うことが必要	2
4							
5	基材		希釈濃度と計算			個人の肌タイプや感受性、使用時の体調、使用する部位や時間帯などに応じて希釈濃度を決める	2
6	精油の伝達経路		血液循環によって全身に行きわたる経路			芳香成分がどのように脳や身体に働くかのメカニズムを学ぶ	2
7			嗅覚による伝達経路				2
8			呼吸、その他				2
9			脳のしくみ			伝達経路としての脳と皮膚の構造について部位名称を知る	2
10			皮膚の仕組み				2
11	実習		クレイパック			ミネラルたっぷりのクレイ（粘土）を使ったパックで、余分な皮脂や毛穴の汚れを吸着させて取り除く効果	2
12	精油の特性		精油の科名と学名 別名			性質の違い、共通性を理解する。	2
13	精油の		抽出部位からの特性				2
14	プロフィール		産地、由来による特性				2
15			精油の化学性 有機化合物とは 精油の化学的分類(精油成分) 化学性から見た作用			精油のそれぞれの香りから受ける印象を大切にし、特色を覚える。	2

16		ローマン・カモミール/フランキンセンス/ ティートリー/クラリセージ/ゼラニウム ベルガモット/グレープフルーツ/スイートマージョラム /レモングラス/ジュニパーベリー/	各精油の特性を知り、有益であるが危険な性質をもつものがあるので、十分な知識をもったうえで扱う	2
19		精油の特性とプロフィールを一致させる		2
21		ワークブック		2
22	実習	香りで涼しさを演出する手法を学ぶ ハーブアレンジメント+保水ジェル+ミント	体感温度にも影響を及ぼすことができる。より涼しさを演出する。	2
23	その他の香り	和製油を楽しもう 日本独自の香り ゆず ヒノキ 月桃等	産地で地方創生の産物として活用されていることを知る	2
24	キャリアオイルの特性	キャリアオイルの種類と特性	どのような種類があるか、色、浸透性、粘性、酸化(ヨウ素価)	2
25		キャリアオイルの化学性 飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸		2
26	実習	ハーブティーで香りを味わおう	ハーブの香りを身体の内側から楽しむ	2
27	アロマセラピーと食事	健康的な生活とは 栄養・運動・休養について知る	QOLや恒常性を高める	2
28		食生活と栄養 食事の役割や、主な栄養素の働きについて 理解し、バランスのとれた食生活を送る	身体の細胞を作り、それらが正しく働くようにするには 健康的な食生活が欠かせない。	2
29		栄養と栄養素 5大栄養素		2
30		バランスの良い食事		2

31		必要なエネルギー		2
32	実習	アロマキャンドル 好みの香りとデザインのキャンドルで演出	虫よけキャンドルへの応用	2
33	アロマテラピーと 運動	運動の効果	健康を維持・増進する助けとなるのが運動	2
34		有酸素運動と無酸素運動 有酸素運動と無酸素運動	運動の違いや効果を知り、個人の体力や目的に応じて取り入れる	2
35		運動への取り入れ方	心身のコンディション作りに活用されている	2
36	疲労と休養・睡眠	疲労と休養	休養や睡眠についての理解を深め、疲労をためない工夫をする	2
37		睡眠 レム睡眠とノンレム睡眠 睡眠の質		2
38		活用の仕方	体内リズムを整えるのに役立つ 快適な休養・睡眠のために、アロマテラピーを活用する。	2
39	生活習慣病	代表的な生活習慣病について	生活習慣病は重大な疾患にもつながる。	2
40	ストレスとメンタルヘルス	ストレスとストレッサー	ストレス症状をやわらげ、心身のバランスを整える	2
41	ライフステージと 健康	女性の健康 特に女陸の場合はライフステージによりホルモンのバランスが崩れる	ライフステージに合わせたアロマテラピーでストレスケアを行うことで、生活が豊かに楽しく。	2
42	アロマテラピーの関連法規	医薬品医療機器等法/製造物責任法/ 消防法/景品表示法/医師法/獣医師法 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律/	専門の法律はないが、代表的な関係する法律を理解する	2
43	ワークブック	健康全般		2
その他				

教科名：アロマテラピー3 (講義)		通期	教科担任：山本絵里子（実務経験教員）		
学科名：アロマケアサポート科		コース：	3年	単位数：	2 単位
授業のねらい		実務経験のある教員の下、アロマテラピー教育のスペシャリストとして、安全なアロマテラピーの実践方法を一般の方に教授できるようになる。		90H	
目指す検定・資格		目標 アロマテラピーインストラクター アロマセラピスト 取得可能な検定		教材費	
テキスト・教材		アロマテラピーインストラクター・アロマセラピスト公式テキスト(共通) アロマテラピーインストラクター公式テキスト(独自) アロマセラピスト公式テキスト(独自) 印刷教材			
評価方法		前期 試験 ・レポート・課題により評価する 後期 試験 ・レポート・課題により評価する			
時数	単元	授業内容（細目）		学習上の留意点	実時数
1	アロマテラピーに関する仕事	資格と仕事			2
2	精油学総論 精油学各論 レポート レポート レポート 利用法 レポート レポート レポート レポート レポート レポート レポート レポート レポート	精油の製造		工程の概要、製造法ごとの特徴、得られる芳香成分の違い	2
3		精油製造法により得られるもの			2
4		ポマード/コンクリート/レジノイド			
4		化学の基礎知識 有機化合物の炭素骨格		芳香成分の科学的特徴を理解する	2
5		炭化水素の結合様式による分類		鎖式、環状、イソプレンの数による分類	2
6		官能基による分類		官能基が芳香と効果に英起用する	2
7		精油の成分変化と劣化 酸化、加水、		精油の保管の知識を深める	2
8		精油の安全性に関わる用語 皮膚刺激、粘膜刺激、皮膚感作、刺激		使用上、保存上の理由により成分除去する	2
9		精油の製造法に関わる用語 分留蒸留			2
10		精油のブレンド ノートの種類 保留性、クエンチング効果、シナジー効果		香りの調整、相乗効果を高めるために精油を組み合わせる	2
11		精油30種と基本情報		目的に応じた精油の選択ができ、感受性の個人差を理解する	2
12					2
13					2
14					2
15		レポート		自身でまとめることにより精油の理解を深める	2
16				2	

17		レポート	自身でまとめることにより精油の理解を深める	2
18		植物油の特徴	ヨウ素価と皮膚感覚の関係を知る	2
19		乾性油、不乾性油、半乾性油		
20		植物油に対する注意		2
21		1 2 種類の植物油の特徴をまとめる	原料、科名、抽出方法、成分、特徴を自分でまとめる	2
22		各実習のポイント	プロとしての役割を理解し、実習を通して利用者に合わせた提案するために求められる知識を学ぶ。 各利用法を使用目的に合わせて組み立てる。実習ノートをそれぞれ書く。	2
23		手順、衛生管理、周囲、環境への配慮		
24		対象実習 ①肩こり		2
25		対象実習 ②頭痛		2
26		対象実習 ③むくみ		2
27		対象実習 ④冷え性		2
28		対象実習 ⑤吐き気		2
29	アロマセラピーの歴史	時代から見た芳香植物の利用法	これまで学んだ歴史をもとに時代の流れや地域間のつながりが暮らしの中に常に香りがあることを理解する	2
30		香りの世界への広がり		2
31	ボディ・フェイストリートメント理論	アロマトリートメント	目的と基本的なことについて	2

31		身体の名称と区分		2
32		トリートメント手技の作用	手技の各組織や器官への作用	2
32	コンサルテーション理論	コンサルテーションの目的と確認事項	傾聴、ホスピタリティ、プライバシーの配慮等を十分にする	2
33		説明と同意、アフターコンサルテーション	安全とサービス、質の向上を目指す	2
34	カルテ作成指導	カルテ作成の目的、記録、管理	行われたコンサルテーション、トリートメントの記録。受けてから実際に聞いたこと、伝えたことをすべてそのまま記録する。	2
35		カルテ演習 記録書書式等		2
36		カルテ演習 記録書書式等		2
37		カルテ演習 記録書書式等		2
38	タッチング論	タッチングの概要、その効果	タッチングが大切な要素であることを理解し第三者に伝えられる	2
39		タッチングの方法		2
40		アロマセラピーにおけるタッチング法		2
41	ボランティア論	ボランティアの定義と特性、意識の変遷	社会へ自発的行動により参加し自分に合わせたボランティアとホスピタリティ	2
42		ボランティアの実践		2
43	アロマセラピー教育概論	アロマセラピー教育概論	講座の企画と準備計画	2
44		指導者としての心得	正確さ、わかりやすさ、危機管理	2
45	自分だけのオリジナルの香りを作る	香りの要素ノートを学び精油の香りの特徴と持続時間を考慮し、自分だけのオリジナルの香りをブレンドする。	学んできたことを総合し目的に合った香りを調合する。	2
その他				

教科名： ハーブ2（講義）		通期	教科担任：堀川　栄美子		
学科名： アロマケアサポート科		コース：	3年	単位数： 2単位	
授業のねらい		ハーブから機能成分を取り出し活用するための色々な方法を学ぶ。ハーブでの身体、心に作用する症状別活用方法を理解し楽しみながらハーブの持つ力を活用できるようにする。		90H	
目指す検定・資格		目標 取得可能な検定 メディカルハーブ検定テキスト		教材費	
テキスト・教材		メディカルハーブ検定テキスト 印刷資料			
評価方法		レポート、課題　検定試験状況により評価する		その他	
時数	単元	授業内容（細目）		学習上の留意点	実時数
1	ハーブの利用方法	利用法		ハーブティーの使い方、保管の仕方を理解する。	6
2	ハーブの利用方法	成分を取り出す方法		お湯を使うもの温浸剤と水で抽出する冷浸剤の利用方法を知る。 栄養素の摂取についても知る。	6
3	ハーブの利用方法	殺菌について		容器や長い時間をかけて抽出すると殺菌が入りやすくなることを注意し覚える。	6
4	ハーブの利用方法	ハーバルバスについて		ハーブの機能成分を理解する。	6
5	ハーブの利用方法	ハーバルバスについて		半身浴、部分浴の効果を知る。	6
6	ハーブの利用方法	ハーバルバスについて		蒸気吸入の効果を知る。 ハーブの成分働きを覚える。	6
7	ハーブを使う	温浸剤　冷浸剤　ハーバルバス フェイシャルスチーム		内容を復習し実践しながら理解を深める。	6
8	ハーブを使う	温浸剤　冷浸剤　ハーバルバス フェイシャルスチーム		内容を復習し実践しながら理解を深める。	6
9	購入時の注意点	食品		安全性を確認できるような知識を身に付けられるように理解する。	6
10	購入時の注意点	香り		似たような名称があるので、学名を確認できるようにする。	6
11	購入時の注意点	信頼		品質面にも注意し慎重に購入する。	6
12	ハーブによる癒し	利用方法		心と体のトラブルに対してどのようなハーブを使えばよいのか理解する。	6
13	ハーブによる癒し	利用方法		心と体のトラブルに対してどのようなハーブを使えばよいのか理解する。	6
14	ハーブによる癒し	利用方法		心と体のトラブルに対してどのようなハーブを使えばよいのか理解する。	6
15	問題	問題の復習		何度も覚えるまで繰り返し解く。理解度を確認する。	6
その他					

教科名：		ビジネスマナー 3（講義）		通期	教科担任：山本絵里子（実務経験教員）	
学科名：		アロマケアサポート科		コース：	3 年	単位数：2 単位
授業のねらい		工芸作家での実務経験を活かし、デッサンを通して立体の把握、プロポーション比例の仕組みを目で感じ取り、手で表現することを指導する。また、立体造形では粘土を用いてモチーフを自分なりのオリジナルティーあふれる表現をする。			90H	
目指す検定・資格		目標 取得可能な検定			教材費	
テキスト・教材		スケッチブック 鉛筆 練り消しゴム				
評価方法		前期：課題 出席状況 学習態度等を総合して評価する			その他	
時数	単元	授業内容（細目）			学習上の留意点	実時数
1	立居振舞	訪問から辞去まで 動作と会話の実習含む			基本動作の復讐	2
2	訪 問	目的別の訪問に適した時間、贈答品			目的別に訪問する時間のマナーや贈答品も違うことを知る	2
3	茶 菓	玉露の入れ方 菓子の盛り方と菓子鉢			玉露の入れ方の違い 菓子の種類、形、季節による盛り方を演出	2
4	連続動作 婚 の 章	和室での実習 床の間の拝見の仕方 結婚式の進行、お祝いの仕方			和室の入室から贈答の行い方までの連続動作を身に付ける 宗派による着席の位置や流れの違いを理解する	2
5						
6	席順	ビジネスの場での席のしつらえ			目的に応じたしつらえ、準備ができる	2
7	席順	国際パーティーでの晚餐会、料理別の席のしつらえ			男女のならば方の違いや料理別のマナーについて知る	2
8	贈答	プレゼントの包み方			ラッピング技術	2
9	テーブルセッティング	ナプキンのたたみ方、シルバーの置き方 講義と実習			ナプキンの様々なたたみ方でテーブルを演出する	2
10	アロマセラピストとしてのコミュニケーションとホスピタリティーについて	コミュニケーションスキル			傾聴 受容 共感	12
11		内的コミュニケーションと外的コミュニケーション			バランスの良いコミュニケーション	
12		ホスピタリティーについて			対等な関係	
13		ホスピタリティーサービス			両方の視点とバランス	
14		ホスピタリティーの実践			体験を共有し実践する	
15						

16	ビジネス	仕事の原点はお客さまの声	求めるものを提供する	2
17	コミュニケーション	「お客さま第一」の姿勢	顧客満足を高める	2
18		アクティブリスニング	声なき声を聴く	2
19		場に応じたビジネス会話	話した内容を仕事につなげる	2
20		ビジネス会話の基本	双方向意思疎通のための方法	2
21		ビジネス会話の進め方	相手に合わせた進め方	2
22		柔らかい印象を与える依頼と断りの方法	不用意な発言を控え礼を尽くす	2
23	ワークシート			2
24	不満を信頼に変えるクレーム対応	クレームの理由とお客さま心理	クレームが起きる理由ととらえ方	2
25		不満を防ぐ対応	誠実な対応	2
26		不満を信頼に変える対応	問題の拡大、再発を防ぐ	2
27		誠実なクレーム対応	心に響くお詫びの仕方	2
28	接客・営業の進め方	接客・営業の基本	常にお客様を意識	2
29		お客さまに喜ばれる接客	ニーズを把握し、今後のユニバサルサービス	2
30		お客さまの立場に立った営業の進め方	コンサルティングセールス	2

31	顧客の創造	効果的な営業の進め方	顧客心理を効果的に結び付ける	2
32		お客さまをつかむには	見込み客から得意客	2
33		顧客満足を高めるための情報収集	客の情報収集	2
34		真の顧客ニーズを探る	情報を活用し1対1で対応	2
35	接客動作	アロマセラピストとして接客シュミレーション 来店から施術お見送りまで	どのタイミングで声をかけていくか	2
36	プレゼンテーションの 目的とプロセス	プレゼンテーションの準備	こちらの意図している方向へ相手を導くため内容構成をしっかりとる	2
37		ビジュアルツールの活用方法	ツールの特徴を生かす	2
38		効果的なプレゼンテーション	言語表現と非言語表現	2
39	問題解決力と論理的思考	問題発見と解決の方法	問題を正確に把握し、条件を明確化し改善策を考える	2
40		仕事の改善に取り組む姿勢	当事者意識を持ち、常に改善	2
41		論理的思考力をつける	根拠や理由の明確化	2
42		ビジネスに使える分析手法	様々な手法を覚え問題を認識化する	2
43		論理の組み立て	論理の基礎を身に付ける	2
44		ケースステディ①	クレーム処理	2
45		ケースステディ②	論理的思考で出店を考える	2
その他				

教科名： マーケティング2（講義）		通期	教科担任：山本絵里子（実務経験教員）		
学科名： アロマケアサポート科		コース		3 年	単位数：

17	ショップ運営演習	自分がショップを開業するとすれば どのようなものができるか 今後の新規事業の展開について考える。	ショップデザインと並行して、どのような商品をどのように売りたいか、自身の付きたい職業と照らし合わせてイメージを膨らませる。	2
18	開業設定	コンセプトを作る	基本イメージを明確化	2
19	タイムスケジュール	開業までの計画	スタート時の成否に影響大	2
20	現状確認	課題を設定	経営要素の課題	2
21	課題解決	具体的な活動計画		2
22	資金計画	必要投資額	テナント契約・店づくり、プロモーション、リクルート資金、運転資金、食材料費、その他を計算していく	2
23		必要調達額収支予測計画		2
24		売り上げ目標設定		2
25		収支予測計画		2
26		損益分岐点		2
27	出店計画	基本的な商圈の考え方	一度決めてしまった物件を変えることは容易ではない。投資額は大きい	2
28		商圈リサーチ		2
29		立地の選定		2
30		物件の選び方		2
31		動線、店舗力、階層、将来の計画		2

32	人的計画	支援者、協力者	顧客満足を得るためには セールスポイントは 社会的認知と信用	2
33		スキルアップ		2
34		集客		2
35		人的確保		2
36	法的手続き	登記、保険、労働条件等	コンプライアンスの遵守	2
37	事例研究	先行者が成功した、失敗した理由	競合を知る	2
38	将来のリスクや問題	リスク回避		2
39	webマーケティング	用語の理解	顧客獲得、商品販売、情報発信 に活用できるが個人情報漏洩に も気を付ける	2
40		SNSの種類と活用方法		2
41		情報セキュリティ		2
42	演習	アロマの業界の歴史との市場発展	業界全体をよく知る	2
43	演習	アロマセラピーに関わる業種		2
44	演習	将来への展望		2
45				2
その他				

教科名：簿記3(講義)			通期	教科担任：梅津 隆雄			
学科名：アロマケアサポート科			コース：		3 年	単位数：4 単位	
授業のねらい		適切に仕訳をすることから、財務諸表を読めるようになるまでを学ぶ。学習内容をもとにして、日商簿記検定2級合格を目指す。			180H		
目指す検定・資格		目標日商簿記検定2級 取得可能な検定			教材費		
テキスト・教材		日商簿記ゼミ 教本・問題演習 2級他					
評価方法		レポート、検定試験状況により評価する			その他		
時数	単元		授業内容（細目）			学習上の留意点	実時数
1	工業簿記（材料費、労務費、経費、個別原価計算）		勘定連絡図の説明、各費用、個別原価計算			勘定連絡図を把握したうえで、原価計算などを理解する。	12
2	工業簿記（部門別個別原価計算）		部門別個別原価計算			原価計算表を使用し原価計算ができるようになる	12
3	工業簿記（部門別個別原価計算）		部門別個別原価計算			原価計算表を使用し原価計算ができるようになる	12
4	工業簿記（総合原価計算）		総合原価計算			勘定連絡図を把握したうえで、総合原価計算ができるようになる	12
5	工業簿記（総合原価計算）		工程別総合原価計算・組別総合原価計算			工程別、組別の原価計算を理解する	12
6	工業簿記（財務諸表、標準原価計算）		勘定連絡図と財務諸表 標準原価計算、原価差異等			財務諸表を作成する。 標準原価計算を使う意味を理解する。	12
7	工業簿記（直接原価計算）		固定費調整、CVP分析、原価の固定分解			短期利益計画のための分析を理解する。	12
8	工業簿記（本社工場会計）		本社工場会計			本社と工場の関係を理解し、仕訳ができるようになる	12
9	商業簿記（債権、債務、有価証券）		手形に関する債権・債務 株式・公社債の購入と売却 有価証券の期末評価			3級に追加の部分を理解し、仕訳できるようになる	12
10	商業簿記（固定資産、リース取引、研究開発費、外貨換算会計）		固定資産の割賦購入・買換え等 リース取引の会計処理 外貨建取引の会計処理			3級に追加の部分を理解し、仕訳できるようになる	12
11	商業簿記（税金、株式発行、剰余金の配当と処分）		税金の分類、株式の発行、利益剰余金の配当と処分、株主資本等変動計算書			3級に追加の部分を理解し、仕訳できるようになる	12
12	商業簿記（決算手続、本支店会計、連結会計）		損益計算書、貸借対照表の作成 月次損益の算定と決算整理仕訳			3級に追加の部分を理解し、仕訳できるようになる	12
13	過去問題集で理解を深める		過去問題集を解く			繰り返し問題を解き、問題に慣れる	12
14	過去問題集で理解を深める		過去問題集を解く			繰り返し問題を解き、問題に慣れる	12
15	過去問題集で理解を深める		過去問題集を解く			繰り返し問題を解き、問題に慣れる	12
その他							

教科名：医療事務 3 (講義)		通期	教科担任：山本 絵里子			
学科名：アロマケアサポート科		コース：		3 年	単位数：2 単位	
授業のねらい		医薬分業が進む中、医科医療機関と並び、保険薬局も私たちの健康に重要な位置づけとなっている。求められる薬局事務の知識や接遇について学習し理解を深め、保険薬局での事務に対応できるレベルに到達する。			9 0 H	
目指す検定・資格		目標 取得可能な検定 調剤事務管理士			教材費	
テキスト・教材		調剤薬局事務テキスト 調剤事務管理士試験問題集				
評価方法		レポート・試験・検定受験状況			その他	
時数	単元	授業内容（細目）			学習上の留意点	実時数
1	薬局の基礎知識 処方箋の基礎知識 薬剤の基礎知識	薬局内での調剤業務の流れを知り、処方箋、薬価基準表の見方、算定にあたって必要となる用語などを学習する。			医療機関で処方箋をもらって薬局に行った経験などを思い出させ、医薬分業が進んでいることを実感する	6
2	調剤基本料	調剤基本料は処方箋を受け付けた場合に、必ず算定する基本の項目であることを理解する。			調剤報酬算定の基本項目の概要を理解する	9
3	薬剤料 調剤料 調剤料の加算	調剤料は薬剤師の調剤行為に対する技術料であり、医科で学習した調剤料とは異なることを理解する。			医科で既に学習した薬剤料、調剤料の算定との相違点を確認する。	9
4	薬学管理料 調剤報酬の算定 会計表の記入	これまで学習してきたことをふまえ、総まとめとして事例をもとに演習を行い、会計表を記入する。			たくさんある薬学管理料については、テキスト4の点数早見表で確認する。	9
5	レセプトの記入方法 レセプト作成	厚生労働省通知の「調剤報酬明細書の記載要領」にしたがい、レセプトを作成する。			レセプトの記入方法を確認しながら作成	6
6	レセプト作成	テキスト3トレーニングブックのレセプト作成問題NO. 1～23			自分のペースで作成	6
7	レセプト点検	テキスト2レセプトの点検を学習した後、テキスト3レセプト点検問題NO. 24～28			調剤薬局ではコンピュータレセであることから、点検の必要性を理解する。	9
8	薬の基礎知識	薬局事務を行う上で必要な、薬の基礎知識を学習する。			薬局勤務において、必要とされる薬の基礎知識であることから、試験問題にも出題される。	6
9	調剤検定試験対策	調剤試験問題集Ⅰ～Ⅴ			時間を計って、試験問題に取り組む。	18
10	調剤事務復習	検定試験過去問題を使用して復習する。			検定試験受験後のため、検定問題を使用して復習する。	6
11	患者接遇	患者さんの立場に立った、質の高いサービスを提供できるように、接遇の基本を身につける。			薬局が年々増加していることから、患者さんに選ばれる薬局になることの重要性を理解する。	4
12	調剤事務の総まとめ	学習レポートを使用して、調剤事務の総まとめを行う。				2
その他						

教科名： パソコン実習3 （実習）		通期	教科担任：梅津隆雄（実務経験教員）		
学科名： アロマケアサポート科		コース：	3 年	単位数：	2 単位
授業のねらい		情報系の実務経験がある指導者の下、必要なパソコンの操作スキルを身につけ、社会でも活用できるITスキルを習得する。		6 0H	
目指す検定・資格		目標 取得可能な検定 MOS 試験		教材費	
テキスト・教材		よくわかるマスターWord 2016 Expert 対策テキスト&問題集 印刷教材			
評価方法		レポート、検定試験状況により評価する		その他	
時数	単元	授業内容（細目）		学習上の留意点	実時数
1	文章の校正	文章校正を設定する		文書のスタイルのオプションを設定してみる。 設定操作をやってみる。	4
2	文章の校正	文章校正を設定する		オートコレクトを設定してみる。手順を覚える。	4
3	文章の校正	文章校正を設定する		コメントを挿入 編集 削除をしてみる。繰り返し操作をする。	4
4	文章の校正	文章校正を設定する		コメントを挿入 編集 削除をしてみる。繰り返し操作をする。	4
5	文章の校正	ハイパーリンク		手順を覚え繰り返し操作する。	4
6	文章の校正	ハイパーリンク		ブックマーク 電子メールアドレスに設定してみる。手順を覚える。	4
7	文章の校正	ハイパーリンク		ブックマーク 電子メールアドレスに設定してみる。手順を覚える。	4
8	資料作成①	練習問題を解く		学習した内容確認のため練習問題を繰り返し解く。	4
9	資料作成②	練習問題を解く		練習問題を解く	4
10	資料作成③	練習問題を解く		学習した内容確認のため練習問題を繰り返し解く。	4
11	資料作成④	練習問題を解く		学習した内容確認のため練習問題を繰り返し解く。	4
12	資料作成⑤	練習問題を解く		学習した内容確認のため練習問題を繰り返し解く。	4
13	資料作成⑥	練習問題を解く		学習した内容確認のため練習問題を繰り返し解く。	4
14	資料作成⑦	練習問題を解く		学習した内容確認のため練習問題を繰り返し解く。	4
15	資料作成⑧	練習問題を解く		学習した内容確認のため練習問題を繰り返し解く。	4
その他					

教科名： 自主研究3（講義）			通期	教科担任：堀川 栄美子		
学科名： アロマケアサポート 科			コース：		3 年	単位数： 3 単位
授業のねらい		各自、自分の学習目標を設定し深めていく。			90H	
目指す検定・資格		目標 取得可能な検定			教材費	
テキスト・教材		学習内容によって異なる。				
評価方法		レポート、課題 検定試験状況により評価する			その他	
時数	単元	授業内容（細目）			学習上の留意点	実時数
1	目標設定	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて検討する。			目標やテーマについて計画を立てる。	6
2	目標設定	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて検討する。			目標やテーマについて計画を立てる。	6
3	目標設定	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて検討する。			長期目標を見据えて短期・中期目標を修正する。	6
4	課題について	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			長期目標を見据えて短期・中期目標を修正する。	6
5	課題について	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			長期目標を見据えて短期・中期目標を修正する。	6
6	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			長期目標を見据えて短期・中期目標を修正する。	6
7	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			各自課題の理解を深め、取り組む	6
8	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			確認をしながら各自課題の理解を深め取り組む。	6
9	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			確認をしながら各自課題の理解を深め取り組む。	6
10	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			確認をしながら各自課題の理解を深め取り組む。	6
11	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			確認をしながら各課題の理解を深め取り組む。	6
12	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			確認をしながら各自課題の理解を深め取り組む。	6
13	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			確認をしながら各自課題の理解を深め取り組む。	6
14	各自課題の取り組み	各自目標の設定 研究方法、計画、テーマについて進める。			確認をしながら各自課題の理解を深め取り組む。	6
15	総まとめ 報告	達成度の確認を行う。			総合的な仕上げ 達成度を自己評価する。	6
その他						

教科名： トリートメント実技2（実習）		通期	教科担任：山本絵里子(実務経験教員)			
学科名： アロマケアサポート科		コース		3 年	単位数： 1単位	
授業のねらい		プロのアロマセラピストとして一般の方にトリートメントを施術し、リラックスやリフレッシュに役立て、身体や精神の恒常性の維持と促進を図ることを目的としコンサルテーションできるようにする。			30H	
目指す検定・資格		目標 アロマセラピーインストラクター、アロマセラピスト 取得可能な検定			教材費	
テキスト・教材		アロマセラピーインストラクター、アロマセラピスト公式テキスト「共通カリキュラム」「独自カリキュラム」				
評価方法		前期 試験 ・レポート・課題により評価する 後期 試験 ・レポート・課題により評価する			その他	
時数	単元	授業内容（細目）			学習上の留意点	実時数
1	身体名称区分	トリートメントするために基本的な名称区分			指の使い方、腕の動かし方、施術者の姿勢など効果と共に基礎知識を得る。	1
2	手技基礎復習	手技の種類と効果、注意事項などボディトリートメントの基礎技術を学ぶ。			指の使い方、腕の動かし方、施術者の姿勢など効果と共に基礎知識を得る。	1
3		トリートメント手技の作用			手技が体の組織や器官へどのように及ぼすか知る。	1
4	トリートメントの準備	トリートメント前の準備			トリートメントの妨げにならないように身支度し、手際よく動けるように衛生的に準備する。	1
5					受け手がリラックスして受け入れられるように準備を心掛ける	1
6		トリートメントシートの描き方				1
7		トリートメントの準備 タオルワーク等				1
8		トリートメントのポイント				1
9	様々な工程	軽擦法の工程を練習する			トリートメントの目的により工程、流れは異なる。	10
	ビデオ視聴	強擦法の工程を練習する			基本をもとに目的に応じたトリートメント技術を学ぶ。	
		揉捏法の工程を練習する			一連の流れを理解し、イメージする。	
10		即打法、振動法の工程を練習する				
11		圧迫法の工程を練習する				
12		運動法の工程を練習する				
		ボディトリートメントの一連の流れ				
20	カルテ作成	カルテ作成、記録、演習の目的			トリートメントにおけるカルテの役割と、カルテ演習について理解し、実践へとつなげる	2
21		カルテ演習の条件				1
22		カルテ演習				1
23	ボディトリートメント実習1	全身①			受け手を変えて体格や感じ方は人によって違うため、力加減、スピードなど心地好いと思われる施術獲得する。	6
29	ボディトリートメント	リンパトレナージュ			むくみに対して有効な手技を学ぶ	2
30	実習2					
その他						